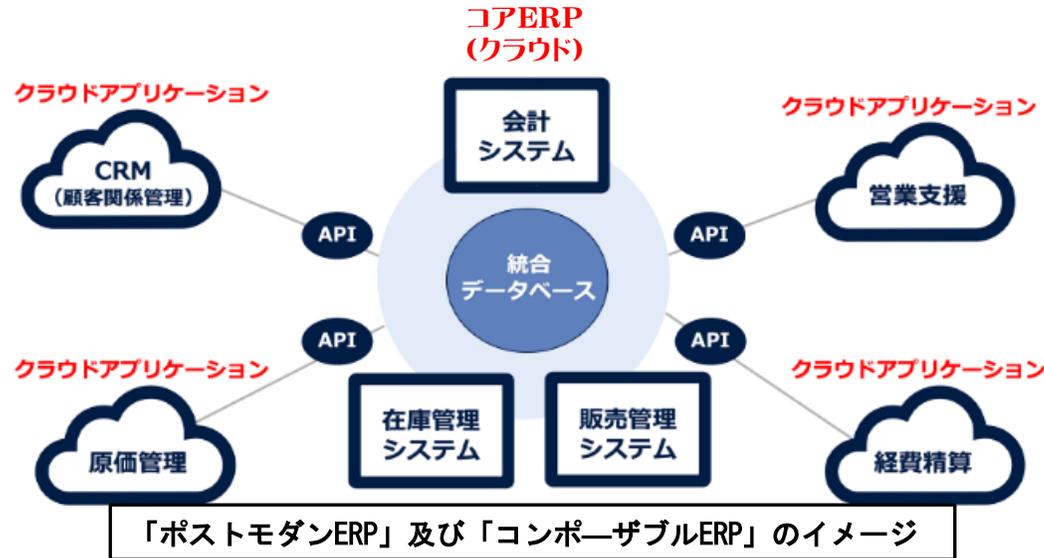


【図表2】 ERP (Enterprise Resource Planning ; 企業資源計画) の理解を深める

「2025年の崖」をクリア出来る、「ポストモダンERP」と「コンポーザブルERP」が、理解を深める対象のERPです



- 「ERPパッケージ」は、オンプレミス型で、それまで分散していた基幹システムを密結合させ、単一の大規模なシステムとして統合したERPで、「モノリシック(=一枚岩の)型ERP」や「統合型ERP」とも呼ばれています。
- 「ERPパッケージ」の『SAP ERP 6.0』は、改修が難しく、新機能の開発・テストに手間とコストが掛かるという弱点から「2025年の崖」の象徴的なERPとなったのです。

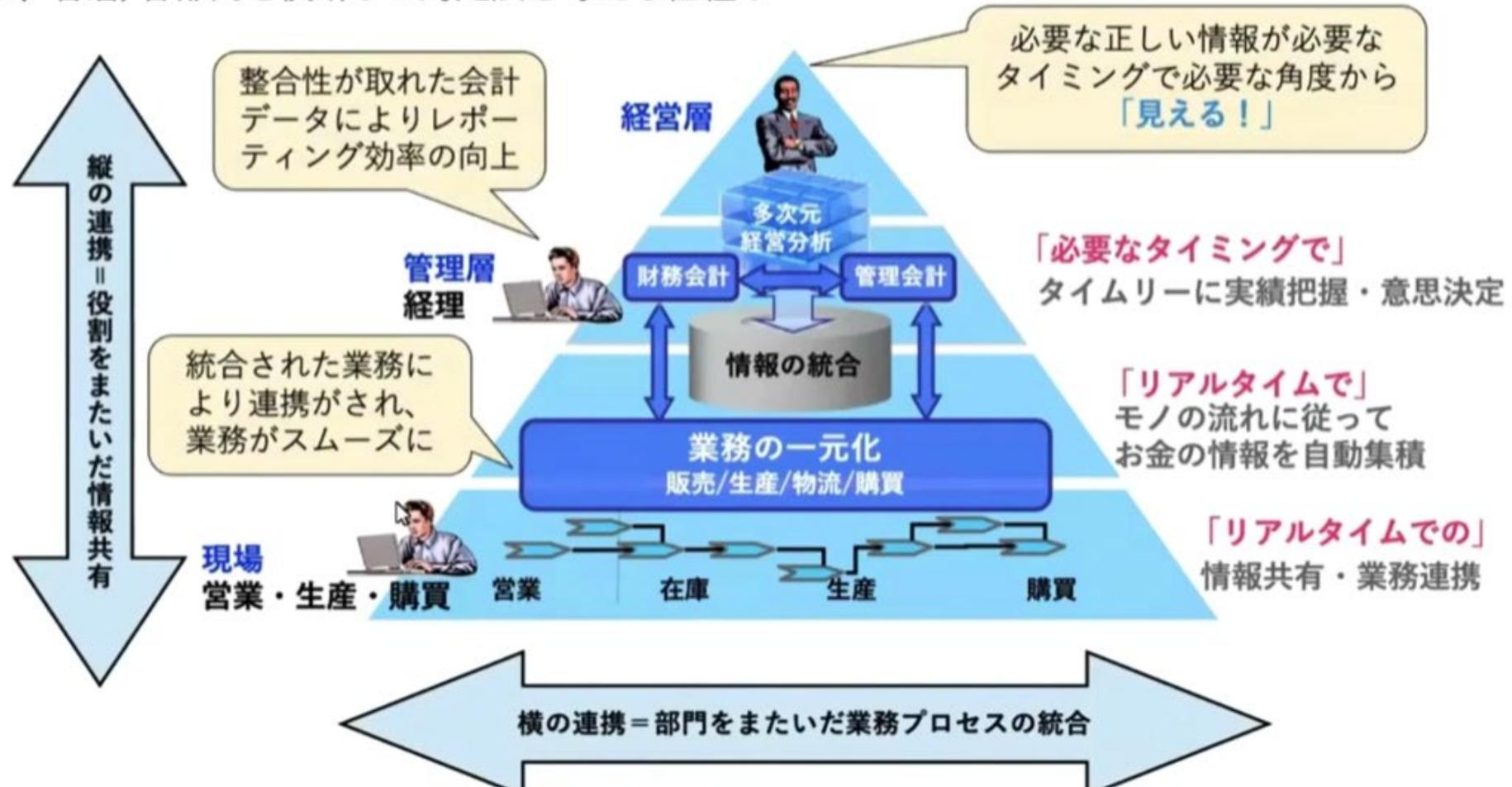
図は、『SmartStage 「DX時代に求められるERP」』より引用

- ◆ ERP (enterprise resource planning ; 企業資源計画) とは、企業・バリューチェーン全体を、経営資源の有効活用の観点から統合的に管理し、経営の効率化を図るための統合型ソフトウェア (統合基幹業務システム) です。
- ◆ ERPによる、業務と情報の統合により、ヒト・モノ・カネの経営資源の動き・流れを、リアルタイムに一元管理 (情報を一つの場所に集約し、統一的なルールで管理) することで、情報の共有、業務の効率化、利益の向上、迅速な経営判断、等を可能にする。 **P 2 参照。**
- ◆ 「2025年の崖」をクリアする、ERP導入を成功させるポイントは、
 - ① 「Fit to Standard」です。つまり業務プロセスを、ERPに沿った標準化により、変革し、極力カスタマイズを避け、最適な基幹システムにする必要があります。
 - ② また、機能を拡張するには、アドオンではなく、EPM (企業業績管理)、WMS (倉庫管理システム)、PLM (製品ライフサイクルマネジメント) 等のベストオブブリード (Best of Breed ; 各業務に最も適したシステムやアプリケーションを組合せて利用する戦略) のソリューションや、SaaSソリューションなどを、APIによる基幹システムとのシームレス・タイトな連携を図ることにより、実現することが肝要です。それにより、企業変革を図ると同時に、全体最適を実現できます。 **P 3 参照。**
- ◆ 機能拡張のイメージ図です。基幹システムとの連携による、全体最適に沿った、部分最適の実現、を確認してください。 **P 4 参照。**
- ◆ SaaS「Blackline」との連携により自動化・効率化・適正化・正確化の実現事例です。「会社間債権債務差異解消」機能&自動化、凄いですね。 **P 5 参照。**

(注) コンポーザブル (composable) とは、構成可能、組み換え可能、組み立て可能などの意味。

ERPによる業務と情報の共有による可視化 《あるべき社内の「情報伝達」のイメージ》

ERPは、経営指標と業務プロセスを統合・循環させることで、常に業務の実態を経営へ、経営の意思を業務へ循環させ、各層/各部門を横断して対処法を考える仕組み



基幹システムと周辺システムの考え方

基幹業務システム（ERPパッケージ）は、堅牢（Best Practice）かつ完成された仕組みです。

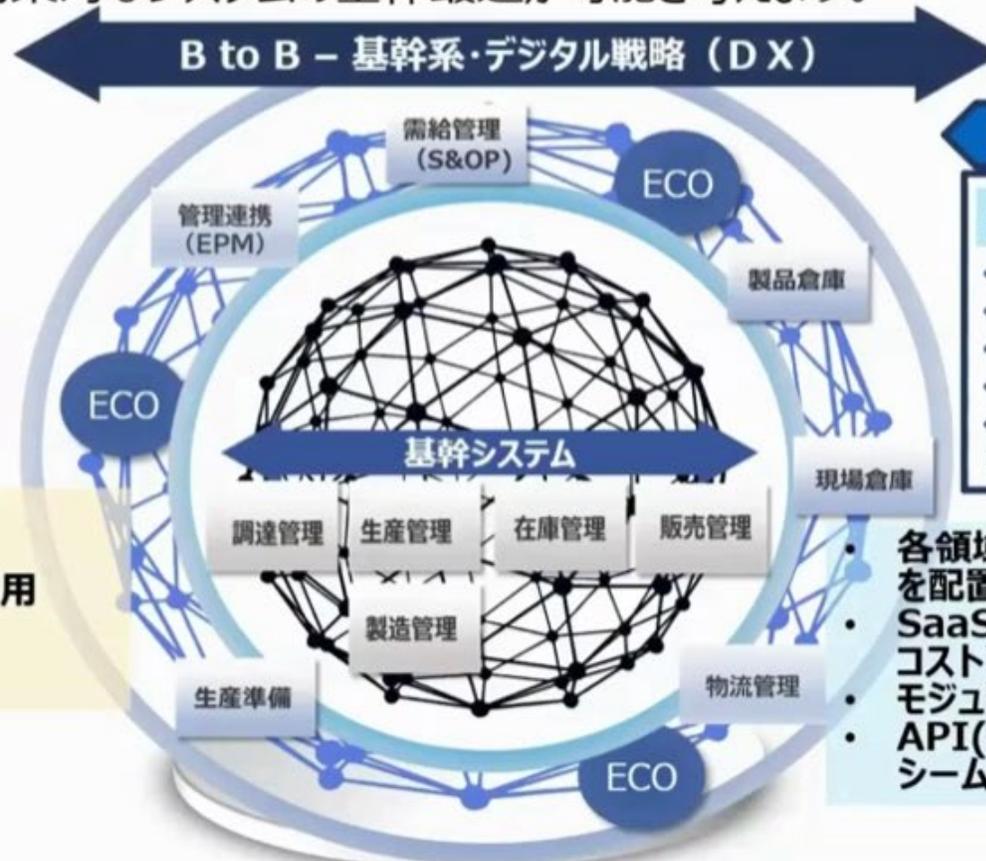
一方、企業全体のプロセスにおいては、その業務に特化した仕組み、または、柔軟性がある仕組み（周辺システム）を導入し拡張することで、より効果的なシステムの全体最適が可能と考えます。

（注）B to B=企業間取引

基幹システム（ERP）最適化

- 基幹業務を支えるプラットフォーム
 - 最小粒度で業務取引を記録
 - 堅牢で完成された仕組み
 - メイン・データソースとして活用
- 一方、
- ERPを前提とした業務標準化
 - 個社固有要件は機能拡張で対応

- 正確に記録することが目的
- 将来はデジタルコアのベース
- メイン・データソースとして、活用
- カスタマイズ最小化
- シンプル化



周辺システムによる拡張

基幹システムとの結合度:大

- EPM（管理連結）
- S&OP（需給計画）
- WMS（倉庫管理）
- MES（製造実行）
- PLM（BOM管理）
- ...

- 各領域別にベストオブブリードソリューションを配置
- SaaSソリューション活用して、TCO(総保有コスト)減少
- モジュール化
- API(コネクタ)を利用して、基盤システムとシームレス、タイトな連携

（注）
TCO ;
Total Cost of Ownership

API ;
Application Programming Interface

「2025年の崖」をクリアーし、DXの進化と同期する、未来型のERPの構築が、重要です

YouTube “NTT DATA Global Solution Corporation” 「新時代のERP導入の成功モデルと実践」より引用

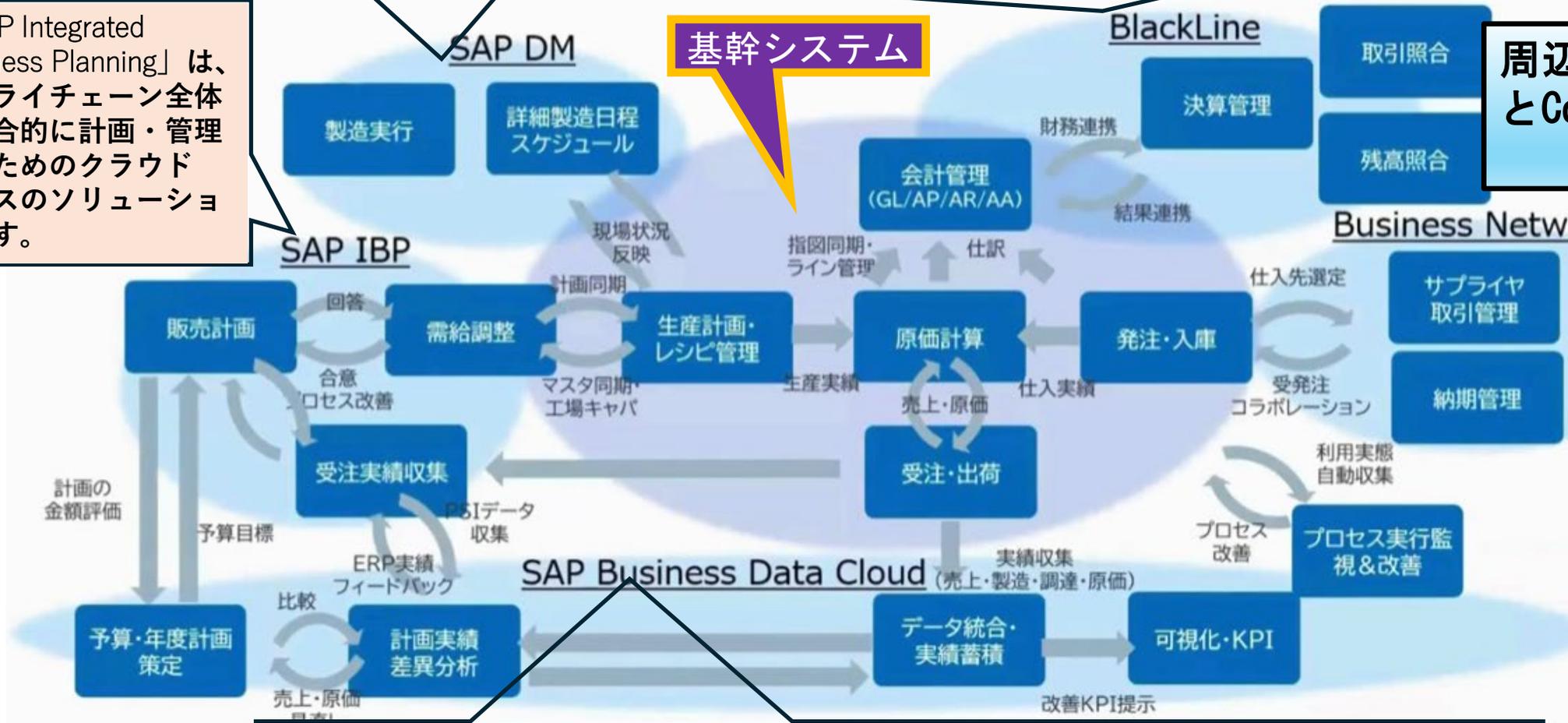
「SAP Digital Manufacturing」は製造現場と経営現場をつなぎ、俊敏な業務遂行と持続可能な労働力を強化するソリューションです。

「BlackLine」は、経理・決算業務の可視化、標準化、自動化、統制強化等の機能を備えたDXを実現する経理業務変革プラットフォームです。(P5「SAPとの最適化事例」参照。) SAP ERPシステムを導入しても、手作業が残りが多い決算作業や監査対応等を中心に、業務プロセスや業務データのデジタル化を実現するとともに、ガバナンスの強化を図ります。

「SAP Integrated Business Planning」は、サプライチェーン全体を統合的に計画・管理するためのクラウドベースのソリューションです。

基幹システム

周辺ソリューションとCore (基幹) とのハーモニー



「SAP Business Network」は、SAPが提供する、B to B (企業間取引)におけるサプライチェーンや調達プロセスを効率化するためのクラウドベースのコラボレーションプラットフォームです。バイヤーとサプライヤーをデジタルで繋ぎ、より強固で透明性のあるサプライチェーンの構築を支援します。

「SAP Business Data Cloud」は、すべてのSAPデータを統合および管理し、サードパーティのデータとシームレスに接続するフルマネージド SaaS ソリューションで、より影響力のある意思決定を行うためのコンテキストを業務部門のリーダーに提供します。

